

令和4年度 学校評価報告書【国立市立国立第八小学校】(学習)

学校教育目標	よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども				重点目標	よく考え、進んで行動する子ども							
学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な取組	評価項目			達成状況		分析(中間)	改善策(中間)	分析(最終)	改善策(最終)	令和4年度の学校関係者評価
				児童による評価	保護者による評価	学校の自己評価	中間評価	最終評価					
よく考え、進んで行動する子ども	どの子どもも学ぶ楽しさを味わえる学校	どの子どもも分かる、どの子どもも楽しんで楽しい授業を目指します	<p>①1人1台端末やデジタル教科書を活用し、各教科の学びを深める。</p> <p>②個に応じた指導・支援を行い、基礎的な内容の定着を図る。</p> <p>③獲得した知識を活用し自分の考えを表現する力を育成するために、学習内容や学習活動を工夫する。</p> <p>④モジュール時程を設定することで、英語に慣れ親しむ環境を作る。</p>	<p>①1人1台端末やデジタル教科書を使うと、授業の内容がよりわかりやすくなると感じることがあります。</p> <p>②学習のゴールを理解し、自分にあった課題を選んだり、ヒントをもらったりすることができました。</p> <p>③自分にあった方法で、自分の考えを発表したり表現したりする場面がありました。</p> <p>④-1モジュールの時間があることで、英語に慣れることができました。</p> <p>④-2英語の学習で、英語を話したり違う文化に触れたりすることは楽しいです。</p>	<p>①1人1台端末やデジタル教科書を活用することで、お子様は各教科の学びを深めていると感じます。</p> <p>②学校は、1人1人の課題に応じた指導や支援を行っていると感じます。</p> <p>③お子様は、各教科での学びを活用し、自分の考えを発表したり表現したりしています。</p> <p>④-1モジュールの時間があることで、英語に慣れることができました。</p> <p>④-2お子様は、英語を話したり違う文化に触れたりすることを楽しんでいます。</p>	<p>①1人1台端末やデジタル教科書は、各教科の学びを深めるのに効果的でした。</p> <p>②教員間で情報を交換することで個に応じた指導・支援を行い、基礎的な内容の定着を図ることができました。</p> <p>③児童が獲得した知識を活用し自分の考えを表現する力を育成するために、学習内容や学習活動を工夫することができました。</p> <p>④モジュール時程では、英語に慣れ親しむ環境を作ることができました。</p>	A	B	<p>学①97.1% 学②96.9% 学③94.1% 学④94%</p> <p>①②③の学校評価の数値が高いことから、一人一台端末を適切に活用することで、個に応じた指導や、児童の表現する場の設定を取り入れた学習活動が、よりしやすくなったことが考えられる。</p> <p>モジュール時程では、外国語のデジタル教科書を活用することで、英語の発音に慣れる環境を作ることができた。</p>	<p>一人一台端末が学年ごとどのように活用されているか、分かりづらいため、月に1回の研修に加えて、普段の学習の様子を気軽に参観できる環境や仕組みを整えていく。</p> <p>学年の活用到達目標を校内で設定することで、一人一台端末が次年度もスムーズに活用できるようにする。</p>	<p>①②③について 1人1台端末の活用は、教員、児童、保護者ともに80%以上が各教科の学びを深めるのに効果的であると示している。特に、児童自身が自分のゴールを明確に、自分にあった課題を選んだり、ヒントをもらったりすることで、個に応じた指導や、児童の表現する場の設定を取り入れた学習活動がより行いやすくなっていると考えられる。</p> <p>④モジュール時程は、学校も児童も英語に慣れ親しむ環境づくりであることを80%が感じている。外国語のデジタル教科書を活用することで、英語の発音に慣れる環境を作ることができた。</p>	<p>①②③について 1人1台端末が学年ごとどのように活用されているか、分かりづらいため、月に1回の研修に加えて、普段の学習の様子を気軽に参観できる環境や仕組みを整えていく。また、児童が1人1台端末の操作に慣れてきたことで起こる課題もあった。児童自身が1人1台端末の活用をきまるとして、90%が肯定的に捉えている。1人1台端末を適切に活用することで、個に応じた指導や、児童の表現する場の設定を取り入れた学習活動がより行いやすくなっていると考えられる。</p> <p>④モジュール時程について 外国語専科とさらに連携を図り、十分な外国語教育ができるようにする。モジュールの有効性は教員アンケートに限り、児童・保護者には英語教育そのものについて調査する。</p>	<p>・端末を使って、調べたり自分の意見をまとめたりしている場面では、他の子の調べ方・まとめ方を互いに学び合ったり、見通しが立たない子供も入ると思われる。一方、個々にテーマが進んでも、グループを組むなどして、互いに情報交換できるように場を工夫している授業もあった。協同的に学ばせていくことも大事である。その中で、一人一人の学習状況を互いに把握することが必要である。</p> <p>・子供たちの評価に比べ、教員の評価が高い理由は何かを検討し、その根拠となる基準を明確にし、子供たちが考えていることとリンクするように改善した方がよい。</p> <p>・英語でモジュール時間を設定して学習するのは効果があると思う。NHKの講座等で15分のことが多い。短時間でも週4回行うことで、英語に慣れ親しむことができていると思う。「楽しい」と答えている子供がこれだけ多いという時点で、大きな成果だと思う。英語専科講師やALTの活用により、オンライングリッドの授業も可能となり、中学への学習につながっていくと思う。</p> <p>・教員の英語指導力について、英語のデジタル教科書を活用していることは評価できるが、研修も充実していけると、さらに子供たちの能力が伸ばせると考える。</p>
			<p>①校内研究「どんなこともあきらめずに立ち向かう八小っ子になろう～体育の授業でシンキング&チャレンジ」の取組を通して、体育科で年7回の研究授業を行い、授業力の向上に努める。</p> <p>②児童が主体的、対話的で深い学びを実現できるように、教員がGIGA研修を年間10回行い、Chromebookや思考ツール等、様々なツールを活用して児童の力を伸ばす。</p>	<p>①-1体育の授業で、考えながら取り組むことができてきたか。</p> <p>①-2体育の授業で、あきらめずに挑戦することができましたか。</p> <p>②-1授業中に、自分からすすんで考えて学習ができましたか。</p> <p>②-2授業中に、先生や友達と考えを伝え合いながら学習ができましたか。</p>	<p>①学校は子供たちがすすんで学んだり、対話などを通して学びを深めようとしていたりする授業づくりに取り組んでいると感じますか。</p> <p>②お子さんは、よく考えてすすんで行動していますか。</p>	<p>①校内研究を通して、授業力の向上に努めましたか。</p> <p>②授業を公開し、相互に授業力向上に努めましたか。</p> <p>③児童が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、様々なツールを活用しましたか。</p>	B	B	<p>学①96.9% 学②85.8% 学③94.3%</p> <p>教員間でお互いの授業を見て、意見や相談できる機会が不十分なことや要因と思われる。</p>	<p>教職員の定期的な研修に加えて、普段の授業などを気軽に参観できる環境や仕組みを整えていく。</p>	<p>①児童の93%、保護者の88%、学校の93%が肯定意見の回答。体育の授業を中心に児童が考えながらあきらめずに取り組む力を育むことができた。一方で、保護者の9%が分からないと回答。保護者に研究の取組や授業の様子が伝わっていないと考えられる。</p> <p>②児童の90%、保護者の78%、学校の92%が肯定意見の回答。教師が様々なツールを活用することで児童が主体的・対話的な学習ができている。一方で、保護者の22%は否定意見の回答。家庭での様子も踏まえての意見とも考えられるが、児童と学校との意識が大きく離れていることが分かる。</p>	<p>①来年度も引き続き同じ研究を行い、あきらめずに立ち向かう力を育む。校内の研究授業での取組をお便り等を通して、今まで以上に保護者に周知する。</p> <p>②児童は1人1台端末の扱いに慣れ、様々な場面で活用することができている。児童がよく考え、すすんで行動している姿を学習場面に加えて、日常的な場面でも多く見られるようにしていきたい。そのために1人1台端末の持ち帰りを促進し、それに合った課題の提示や活用方法を工夫していく。</p>	<p>・子供たちが、自己評価として「考えている」と答えているのが良い。</p> <p>・授業を観て思ったが、子供たちが端末で調べていると、深い考えなしに深く入り込んでしまうことも懸念される。自分の目的に立ち戻る切り替えや情報モラルの指導が必要と考える。</p> <p>・保護者としては、端末を毎日持ち帰ることで、予定などを子供自身が確認できて大変助かっている。</p>
			<p>①習熟度別学習（第3学年以上）を通して、児童一人一人の状況を適切に把握し、実態に応じた指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <p>②家庭学習を毎日出し、基礎的・基本的な内容の定着の補助的な取組とする。</p> <p>③東京ベーシックドリルを活用し、基礎的・基本的な内容の定着状況を把握する。</p> <p>④繰り返しの指導（授業開始時に既習内容を振り返る等）を行う。</p> <p>⑤算数の定着が図れない児童については、給食準備時間を使って10分間×週2回補習を行う。</p> <p>⑥1時間の授業内で、必ず振り返りの時間を設定する。</p>	<p>①③ベーシックドリルを活用し、前学年までに配当されている算数の問題の正答率より評価する。（3年生以上）</p> <p>②毎日、家庭学習をしていますか。</p> <p>⑥毎時間、授業の振り返りができましたか。</p>	<p>①学校は、子供たちに基礎的・基本的な内容の定着を図っていると思いますか。</p>	<p>①⑤児童一人一人の状況を適切に把握し、補習の時間を設定するなど、実態に応じた指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ってきましたか。</p> <p>②家庭学習課題を毎日出しましたか。</p> <p>④繰り返しの指導を行ってきましたか。</p> <p>⑥1単位時間の中で、振り返りを含めた授業構成を意識できましたか。</p>	A	B	<p>学①⑤ 91.5% 学② 91.4% 学④ 100% 学⑥ 94.2%</p>	<p>来年度も年度初めにベーシックドリルテストを行い、実態把握を行う。（→早い時期から補習が行えるのであれば、補習対象者をベーシックドリルから選択しても良い）</p> <p>ドリルパークの活用を通して、児童の実態に適した学習に取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>補習を行うことで、算数が苦手な児童に対して様々な支援をすることができた。</p>	<p>児②75.4% ⑥89.7% 保①91% 学①⑤93.1% ②86.2% ④95.5% ⑥82.8%</p> <p>保護者と教員のアンケートで90%以上の評価があり、基礎的・基本的な学習の定着を図ることができた。補習の時間が有効的に使われていると考えられる。一方で、児童と学校との間で家庭学習の意識の差がアンケートで10ポイント以上離れており、家庭学習に毎日取り組む意識付けに課題がある。また、学習の基礎的・基本的な定着を必要とする児童の家庭学習の状況があまり思わしくない傾向にある。</p>	<p>算数の補習は継続して行い、算数の基礎的・基本的な定着を図れるようにする。また、ベーシックドリルで定着度を図り、授業だけでなく補習など繰り返しの指導に生かしていく。家庭学習の取り組み方について学年で合わせて行うとともに、授業の振り返りを含めた、基礎的・基本的な学習が身に付くような課題を毎日出す。また、1人1台端末の持ち帰りとも関連付けて進めていく。</p>	<p>・家庭学習では、課題を出すだけでなく、なぜその課題が大切なのか、意識づけをし、目的意識を耕してほしい。</p>

達成状況の指標 A:90%~100% B70%~89% C 0%~69%

令和4年度 学校評価報告書【国立市立国立第八小学校】(健康)

学校教育目標		よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども				重点目標		よく考え、進んで行動する子ども					
学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な取組	評価項目			達成状況		分析(中間)	改善策(中間)	分析(最終)	改善策(最終)	令和4年度の学校関係者評価
				児童による評価	保護者による評価	学校の自己評価	中間評価	最終評価					
健康でたくましい子ども	豊かな情操を育める学校	健康的な学校生活を作ります	<p>①学期に1回(1週間)のパワーアップタイム旬間を設け、体力向上を図る。(1学期:投げる、2学期:縄跳び、3学期:持久走)さらに、コーディネーショントレーニングとして、1分間のストレッチ、体幹を鍛えるトレーニングなどを、パワーアップタイム、日頃の体育の授業とリンクさせて、取り組めるようにする。</p> <p>②体力テストの結果を分析し、結果が低い種目をパワーアップタイムとリンクさせて、体力向上を図り、記録を伸ばせるようにする。</p>	<p>①-1パワーアップタイムに、楽しく取り組むことができましたか。</p> <p>①-2コーディネーショントレーニングに、楽しく取り組むことができましたか。</p>	<p>①学校は、パワーアップタイムやコーディネーショントレーニングなどの取組を通して、体力向上に努めていると思いますか。</p>	<p>①パワーアップタイムやコーディネーショントレーニングなどの取組を通して、体力向上に努めることができましたか。</p> <p>②パワーアップタイムなどの取組を通して、体力テストの結果が低い種目の記録向上に向けた取組を行うことはできましたか。</p>	B	B	<p>○職員の9割が肯定的に捉えている。コーディネーショントレーニングでは、月曜日と木曜日の8:30~8:35に体育委員会の児童による一斉放送を行い、全校児童が取り組めるようにした。また、JACOTによる教員研修や児童への実技指導を行い、教わった運動を日頃の体育の授業に取り入れ、楽しく取り組むことができた。</p> <p>○職員の7割が肯定的に捉えている。児童は楽しく取り組んでいるが、体力テストの結果が低い種目の記録向上に向けた取り組みとしての認識を教員間でのさらなる周知を図れるとなおよい。</p>	<p>○低学年からの積み重ねが大切であるので継続していく。今後、コーディネーショントレーニングの内容を学年別にしていく必要がある。</p> <p>○体力テストの昨年度の結果とパワーアップタイムの取り組み内容を照らし合わせながら内容や取り組みを吟味する必要がある。</p>	<p>①児童の9割、保護者、職員の8割が肯定的に捉えている。コーディネーショントレーニングでは、月曜日と木曜日の8:30~8:35に体育委員会の児童による一斉放送を行い、全校児童が取り組めるようにした。また、JACOTによる教員研修(8月と1月)や全学年への実技指導(10月)を行い、教わった運動を日頃の体育の授業に取り入れ、楽しく取り組むことができた。</p> <p>②児童の9割、保護者、職員の8割が肯定的に捉えている。体力テストの結果が全体的に低いことから、全体的にボトムアップの必要がある。</p>	<p>①体育の授業や休み時間、朝の時間を活用し、パワーアップタイムやコーディネーショントレーニングに引き続き取り組み、体力向上を図る。コーディネーショントレーニングは、学期に1回取り組み月間を設け、断続的に指導できるようにする。</p> <p>②体力テストの結果が低い種目のみでなく、体力向上に向けて様々な種類の運動に取り組めるようパワーアップタイムの内容を工夫する。</p>	<p>・保育園と1年生との交流をした。その際の飽きさせない工夫、楽しませる動きの工夫など、「社会の力活用事業」や体育の研究の成果を感じた。</p> <p>・校庭の遊具がきれいになっていった。よい環境となっている。</p> <p>・地域の方々が得意分野を生かして子供たちに色々な体験をさせることができた。特に、学生ボランティアは、子供たちと年齢が近い分、良い関係となり、効果的であった。</p> <p>・可能であれば、学校公開の4時間目に地域と連携したプログラムを企画するなど、地域に加え、もっと保護者が参加できるように試みてほしい。</p> <p>・「互いのよさを認め合う」というが、よいところも悪いところも含めて認め合えるようにしていくこと、存在を認めていくことも大事ではないか。</p>
		心豊かな学校生活を作ります	<p>①なかよしタイムを通して、上位学年が下学年のお手本となるように、主体的に活動できるように指導する。</p> <p>②地域の方やゲストティチャーなど、いろいろな人との関わりや体験を通して、豊かな情操を育む。</p> <p>③オリパラ教育推進の八小レガシーとして、しょうがい者理解を進めていく。そのために、パラスポーツへの興味・関心を高める。また、特別支援学級との交流を深めていく。</p> <p>④文化的行事(音楽会)を通じて、豊かな感受性や表現力を育成し、お互いの良さを認め合い共に学び合えるようにする。</p>	<p>①なかよしタイムで、上位学年が遊びを進めてくれたか。上位学年は、下学年のお手本となるよう、計画的に遊びを考えて進めることができましたか。</p> <p>②地域の方やゲストティチャーといろいろなことを学ぶことはできましたか。</p> <p>③特別支援学級との交流やパラスポーツの講演を通して、しょうがい者理解を深めることはできましたか。</p> <p>④音楽会で、お互いの良さを見つけたか。</p>	<p>①学校は、なかよしタイムなどの取組を通して、上位学年が主体的に活動できるように指導することができましたか。</p> <p>②学校は、地域の方やゲストティチャーなど、いろいろな人との関わりや体験を通して、豊かな情操を育んでいると思いますか。</p> <p>③学校は、しょうがい者理解を深めるための活動に、しょうがい者理解を深めることができましたか。</p> <p>④学校は、音楽会を通して、自分の学年や他学年のよいところを認め合えるように指導できていると思いますか。</p>	<p>①なかよしタイムなどの取組を通して、上位学年が主体的に活動できるように指導することができましたか。</p> <p>②地域の方やゲストティチャーなど、いろいろな人との関わりや体験を通して、豊かな情操を育めることができましたか。</p> <p>③パラスポーツや特別支援学級との交流を通して、障がい者理解を深められるように指導されましたか。</p> <p>④音楽会での合唱や合奏を通して表現力を高め、他学年や自分の学年のよいところを認め合い、学び合えるように指導しましたか。</p>	B	B	<p>○職員の9割が肯定的に捉えている。保護者は、異学年交流の様子を実際には見えていないが好意的に捉えているのは、家庭で児童が話題にしていると推測できる。</p> <p>○職員の8割が肯定的に捉えている。学校行事などの交流により、障がい者理解は深まったと肯定的に捉えている割合も多いが、より一層の交流や取り組みなどを検討する必要としている情報や教材を明確にする必要がある。</p> <p>○職員の9割が肯定的に捉えている。音楽会に向けて表現力を高め、異学年の演奏や合奏から互いの良いところを認め合ったり、学び合ったりすることができた。</p>	<p>○ペアにしたことや異学年での交流(運動会の表現を見せ合うことなど)で、関係が深まった様子が見られる。コロナ禍の対応で異学年交流として縦割り班活動を行っているが、今後、従来の縦割り班の形に戻し、6年生の責任感を育んでいきたい。その際、兄弟学年でペアを組む、より小さい集団にするなどの実施方法は検討していく。現状は、まず、現在の異学年交流の形で、上位学年の意識を高めていく。</p> <p>○今後も、単元などに関連して、地域の方、ゲストティチャーの活用を継続していく。</p> <p>○八小レガシーとして、特別支援学級紹介ビデオ視聴や交流会を行うことを今後も継続し、障がい者理解をより深めていく。</p>	<p>①保護者、児童、職員の9割が肯定的に捉えている。保護者はなかよしタイムの様子を実際に見ていないため、わからないという回答の保護者も1割いるが、肯定的にとらえているのは、家庭で児童が話題にしていると推測できる。また、児童自身が活動に対して前向きであることが分かる。</p> <p>②保護者の8割、児童の9割、ほとんどの職員が肯定的に捉えている。</p> <p>③児童は、障がいについての理解は高まっているが、特別支援学級やはばたきでの学習などについての理解には結びついていないことが推測される。</p> <p>④保護者、児童の9割、ほとんどの職員が肯定的に捉えている。本校初めての音楽会開催となったが、異学年の演奏や合奏から互いの良いところを認め合ったり、学び合ったりすることができた。</p>	<p>①コロナ禍の対応で兄弟学年との交流を行い、アンケートでは三者共に肯定的な結果になっている。次年度以降は、今年度の取り組みのよさを残しつつ、従来の縦割り班の形に戻すことを検討し、6年生の責任感を育んでいきたい。</p> <p>②児童が地域の方やゲストティチャーとの学習を楽しみにしているため、今後も単元などに関連した活用を継続していく。</p> <p>③障がいについての理解は継続的に行いながら、さくら学級やはばたきとの交流を通して、互いのよさを認め合える関係づくりができるようきっかけづくりを行う。</p> <p>④音楽会に限らず、異学年や互いのよさを認め合えるような行事や活動を継続して行っていく。</p>	

達成状況の指標 A:90%~100% B70%~89% C 0%~69%

令和4年度 学校評価報告書【国立市立国立第八小学校】(生活・特活)

学校教育目標	よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども			重点目標	よく考え、進んで行動する子ども
--------	---	--	--	------	-----------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な取組	評価項目			達成状況		分析(中間)	改善策(中間)	分析(最終)	改善策(最終)	令和4年度の学校関係者評価
				児童による評価	保護者による評価	学校の自己評価	中間評価	最終評価					
<p>多様性を受け入れられる児童を育てます</p> <p>仲良く助け合い、よく働く子ども</p> <p>間違いを認め合える学校 安心して失敗できる学校</p>			<p>①ふれあい月間(6月、11月)を通し、思いやりの気持ちを育む。また、毎学期(6月「気持ちのよい言葉をつかおう」、11月「あたたかい言葉をつかおう」、2月「感謝の気持ちを伝えよう」)の月目標と合わせ、重点的に指導する。</p> <p>②学校生活アンケート(いじめに関するアンケート)を年4回実施し、楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)を年2回実施する。その結果に対して、聞き取りや個別のフォローを丁寧に行い、学級経営の向上を目指していく。また、職員全体でいじめの予防や早期発見、必要な情報の共通理解に努める。</p> <p>③道徳や特別活動などの時間を通して、自他の生命を尊重し、人権に関わる理解と認識を深め、望ましい人間関係を育てる。</p> <p>④異学年交流を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合って活動できるように指導する。 ・1ヶ月に1度はなかよしタイム(異学年交流)を実施し、上位学年が活動の計画、準備を主体的に進め、下学年がペアや班での活動に進んで参加できるように取り組ませる。 ・児童の8割が主体的な活動ができるように指導する。</p> <p>⑤クラブ活動を通して、多様性を受け入れ、異学年と仲良く助け合って活動できるように指導する。 ・年間10回実施し、6年生への事前指導、活動計画、他学年との交流が活発になるように指導する。</p>	<p>①相手を思いやり、誰にでも優しく接していますか。</p> <p>②何か困ったことがあったときに、誰かに相談できていますか。</p> <p>③自分や友達を大切にしたり、いいところを見つけたりすることができていますか。</p> <p>④なかよしタイムや体力テスト、運動会などを通して、他学年の友達と仲良く助け合っで、活動することができましたか。</p> <p>⑤クラブ活動を通して、友達と仲良く助け合っで活動することができましたか。</p>	<p>①学校は、子供たちが思いやりをもち、学校生活を送るよう指導や取り組みを工夫していると思いますか。</p> <p>②学校は、子供たちに寄り添って理解しようしたり、いじめの予防、早期発見に努めたりするなど、丁寧な対応を行っていますと思いますか。</p> <p>③学校は、自他の生命を尊重し、人権に関わる理解と認識を深め、望ましい人間関係を育てていると思いますか。</p> <p>④学校は、なかよしタイムなど異学年交流を通して、仲良く助け合っで楽しく活動できるよう指導していると思いますか。</p> <p>⑤学校は、クラブ活動を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるよう指導していると思いますか。</p>	<p>①ふれあい月間を通して、児童が互いに認め合い、思いやりをもって学校生活を送れるよう指導や取り組みを工夫しましたか。</p> <p>②日頃から児童に寄り添って理解しようしたり、いじめの予防や早期発見に努めたりするなどして、必要な情報を職員全体で共通理解できるように努めていますか。</p> <p>③道徳や特別活動などの時間を通して、自他の生命を尊重し、人権に関わる理解と認識を深め、望ましい人間関係を育むよう指導や取り組みを工夫していますか。</p> <p>④児童が、異学年交流を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるよう指導することができましたか。</p> <p>⑤児童が、クラブ活動を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるよう指導することができましたか。</p>	A	A	<p>①学94.1% 児童が思いやりをもって学校生活を送れるよう、指導や取り組みを工夫することができていると考えられる。</p> <p>②学97.1% アンケートがほぼ毎月あるため、児童と話すことが多く、いじめの予防や早期発見につながっていると考えられる。</p> <p>学③100% 道徳の時間や運動会、音楽会等の行事において児童がお互いに助け合ったり、認め合ったりするなど望ましい人間関係を育むよう指導することができたと考えられる。</p> <p>学④100% 学校評価の数値が高いことから、児童が、異学年交流を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるように指導することができたと考えられる。</p> <p>学⑤91.5% 学校評価の数値が高いことから、児童が、クラブ活動を通して、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるように指導することができたと考えられる。</p> <p>クラブ長が担当の教員に、次回の活動内容を伝えらえるよう事前準備を指導することで、児童が主体的にクラブ活動を進めることができた。</p>	<p>①引き続き、ふれあい月間を通して、思いやりの気持ちを育てるよう指導を継続する。</p> <p>②学校生活アンケートとQUアンケートを通して、児童理解や教員間での情報共有、いじめの予防、早期発見、迅速な対応に努める。また、いじめや不登校などトラブルが起きた場合は、担任だけでなく管理職やスクールカウンセラーを含めたメンバーで対策委員会をすぐに開き、情報共有や解決に向けて職員が連携して対応していく。</p> <p>③生命尊重や人権教育、望ましい人間関係の育成に関する具体的な取り組みを、お便りやClassroom等を活用し、家庭に発信していく。</p> <p>④今後も、上位学年の十分な事前準備の指導を継続し、異学年交流で、多様性を受け入れ、仲良く助け合っで活動できるようにしていく。活動後の振り返りをしっかり行い、今後の指導改善につなげていく。</p> <p>⑤クラブ長が担当の教員に、次回の活動内容を伝えらえるよう事前準備指導を継続し、児童が主体的にクラブ活動を進められるようにする。各クラブの担当者は、児童と共に活動内容をより充実できるよう工夫をしていく。</p>	<p>①児童アンケートの結果より、思いやりをもって接することができている、まあまあできている児童が95%だった。また、83%の教職員が日頃から児童に寄り添って理解しようしたり、いじめの予防や早期発見に努めている。このことから、教職員の日頃の工夫が児童の様子に反映されているとされていることがわかる。</p> <p>②100%の教職員が日頃から、児童に寄り添って理解しようとして努めているが、約18%の児童が相談できていないと答えている。保護者の方は76%の方が肯定的にとらえている一方で、18%の保護者の方がよく分からないと答えている。</p> <p>③児童アンケートより、95%の児童が自他ともに大切にし、良さを見つけることができている。保護者アンケートより76%の保護者が学校は、望ましい人間関係を育んでいると答えている一方で、17%の保護者がわからないと感じている。86%の職員が工夫できていると答えている。</p> <p>④児童96%・保90%・学93% 児童、教職員、保護者共に、9割以上が肯定的に捉えている。コロナ禍においても、工夫してできた異学年との交流の機会を設け、指導したことで、児童の仲良く助け合う気持ちが育ち、保護者にも伝わっていると考えられる。</p> <p>⑤児童95%・保56%(分からない40%)・学93% 児童、教職員は、9割以上が肯定的に捉えている。児童は、仲よく助け合いながらクラブ活動ができ、教員は、児童が多様性を受け入れ、主体的に活動できるよう指導することができている。保護者の「分からない」という回答4割は、クラブ活動をしている姿を参観する機会がないことが影響していると考えられるため、回答を活動学年の保護者に絞り、より正確なデータを得ることで、改善策を講じていく。また、学校公開時、クラブ活動の様子を保護者に伝えられるのではないかと考える。</p>	<p>・放課後の遊ぶ姿を見ていたり授業の様子から、多様性を受け入れられる子供たちを育てていると感じた。 ・引き続き、子供が相談できる場や環境の設定を充実させてほしい。 ・いじめの定義や基本方針について、教職員は研修をして理解するようにしていることはわかったが、保護者に発信していくことに努めてほしい。 ・いじめのSOSをとらえるという観点からも、より保護者からなるべく早く学校に伝えられる方法、意見を吸い上げる場や環境を検討してほしい。 ・いじめが起こってからではなく、起こさない指導も大切、ふれあい月間の指導・道徳の充実に努めてほしい。 ・異学年交流は、良い取組をしている。</p>	
			<p>失敗を恐れず、挑戦していく児童を育てます</p>	<p>①運動会や音楽会などの行事や学校生活において、目標設定や振り返りの場を意図的に作り、目標を意識し、最後までやり抜く気持ちが育つよう指導する。</p> <p>②委員会活動を通して、主体的に活動できるよう指導する。 ・1ヶ月に一度、活動を実施し、各委員会で、進んで、学校をよりよくするためにできることがないかを話し合い、主体的に活動できるように指導する。 ・児童の8割が主体的な活動ができるように指導する。</p>	<p>①運動会や音楽会などの行事等を通して、子供たちが目標に向けて粘り強く、最後までやり抜くことができるよう指導や取り組みを工夫していますか。</p> <p>②委員会活動を通して、学校をよりよくするために進んで活動することができましたか。</p>	<p>①学校は、行事等を通して、子供たちが目標に向けて粘り強く、最後までやり抜くことができるよう指導や取り組みを工夫していると思いますか。</p> <p>②学校は、委員会活動を通して、学校をよりよくするためにすすんで活動することができるよう指導していると思いますか。</p>	<p>①行事や学校生活において、子供たちが目標をもち、最後までやり抜くことができるよう指導や授業の取り組みを工夫していますか。</p> <p>②児童が、委員会活動を通して、学校をよりよくしようとして進んで活動することができるよう指導することができましたか。</p>	A	A	<p>学①100% 学校評価の数値が高いことから、行事や学校生活において、子供たちが目標をもち、最後までやり抜くことができるよう指導や授業の取り組みを工夫することができたと考えられる。</p> <p>6年生の行事実行委員会や委員会を中心に、各行事でのスローガン決めや準備を児童が主体的に活動することができた。</p> <p>②91.5% 学校評価の数値が高いことから、児童が、委員会活動を通して、学校をよりよくしようとして進んで活動することができるよう指導することができたと考えられる。委員長が事前に、担当教員に次回の活動について伝えられるように指導したことで、各委員会でスムーズに活動を行うことができた。</p>	<p>①6年生の行事実行委員会の発足を今後も引き継いでいき、児童が主体的に取り組める指導に繋げられるようにしていく。さらに、6年生を中心に、学校全体で取り組める活動の工夫を考えて指導していく。</p> <p>②委員長が事前に、担当教員に次回の活動について伝えられるように指導を継続し、各委員会でスムーズに活動を行えるようにしていく。さらに、各委員会で連携した活動ができるように指導していく。</p>	<p>①児童95%・保96%・学100% 児童は、行事に取り組む前に、全体でスローガンを決めたり、一人一人目標を立てたりして臨み、教員はその達成に向けての手立てを工夫した指導を行うことができたことと捉えることができる。</p> <p>②児童97%・保64%(分からない35%)・学93% 児童、教職員は、9割以上が肯定的に捉えている。多様性を受け入れ、仲よく助け合いながらクラブ活動ができるよう指導ができていたものと考えられる。保護者の「分からない」という回答4割は、クラブ活動をしている姿を参観する機会がないことが影響していると考えられる。</p>	<p>①全体の評価の数値が高いことから、行事や学校生活を通して、子供たちが成長することができたと考えられる。しかし、6年生の行事実行委員の活動内容が、本来は、代表委員の仕事であったと考えられ、準備を進める上で6年生の負担の増大と学校全体で行事を進められないことに繋がったと考えられる。6年生の行事実行委員の仕事は、学年に関わることに絞り、学校全体に関わることは、代表委員を中心に進めていくようにし、役割、仕事の分担や流れを再確認し、整理することで、行事をよりスムーズに行えるようにする。</p> <p>②クラブ活動と同様に、回答を活動学年の保護者に絞り、より正確なデータを得ることで、改善策を講じていく。また、委員会活動の振り返りカードに保護者のコメント欄などを設けることで、保護者に委員会の活動内容が伝わるようにする。</p>

達成状況の指標 A : 90%~100% B 70%~89% C 0%~69%